People Co.,Ltd.

生産物賠償責任保険付

自転車

# 共通

品質保証書付

# 取扱説明書

取 説 201206

## この説明書・保証書は大切に保管してください。

自転車を安全で快適にご使用頂くために、必ずお読みください。

警告

お子様やご高齢の方が自転車を使う場合は、事前に保護者の方が本書を必ず読んで、正しい乗り方と危険なこと、してはいけないことをよく指導してください。不適切な取り扱いや調整は人身事故につながる危険があります。警告・注意・禁止・強制事項は必ずお守りください。

This manual has important information on safety. Please have someone who can read Japanese to explain the contents in detail.

### 保証書について

- 保証書は、本書にとじられています。大切に保管してください。
- 保証書は、「販売年月日／販売店名／ロット番号／車体番号」などの記入を確かめて、お店からお受け取りください。
  - ※ 販売店名の記入のあるもののみ有効となりますのでご注意ください。
  - ※「ロット番号」の記入がもれている場合は、フレームに貼ってあるシールを見て、お客様ご自身で記入をお願い致します。

## 警告表示について

※警告表示は、危険性の程度に応じて次の区分で示しています。特にご注意ください。
※間違った取り扱いや調整は事故につながる危険があります。警告・禁止・注意・強制事項を必ずお守りください。

**警告：** 取り扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。

**注意：** 取り扱いを誤った時に使用者が障害を負う危険が想定されるとき及び、物的損害のみの発生が想定されるもの。

**禁止：** 危険の程度とは関係なく、道路交通法で禁止されている行為。または、当自転車の保証範囲外の行為。

**強制：** 使用者に必ず実行して頂きたい事。

## 目次


- ■ 1）各部のなまえ ---------- P1
- ■ 2）正しい使用条件 ---------- P1
- ■ 3）安全のために必ずお守りください ---------- P2~4
- ■ 4）各部の取り扱い方と調整方法 ---------- P4~8
- ■ 5）乗る前の点検 ---------- P8~10
- ■ 6）お手入れと保管 ---------- P10~11
- ■ 7）防犯登録について ---------- P11
- ■ 8）定期点検用チェックリスト ---------- P11



People 発売元 ピープル株式会社 〒103-0004 東京都中央区東日本橋 2-15-5 モリビルディング

●商品のお問い合わせはお客様相談係まで TEL 03（3862）3739 ※電話受付時間：月～金（祝日を除く）10:00～12:00・13:00～16:00

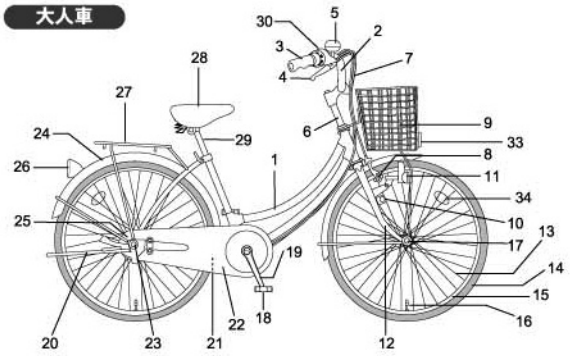
FAX 03（3862）3730

# 1）各部のなまえ

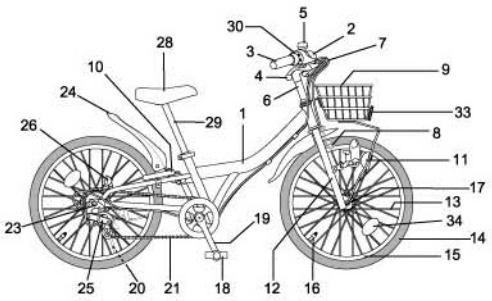
図で説明しているのは一般的な仕様です。お客様がお求めになられた商品とは一部異なる場合があります。

※ここで説明する自転車は一般道路用の自転車です。凹凸の激しいオフロードは走行できません。　※詳しくは、販売店でおたずねください。

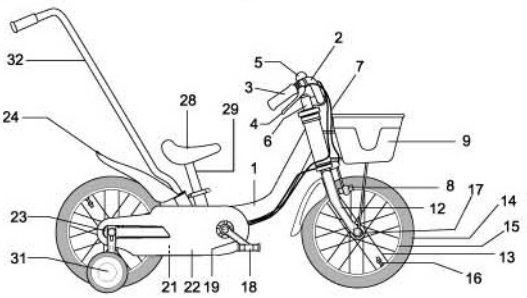
**大人車**



**子供車（20～24 インチ）**



**幼児車（12～18 インチ）**



| No. | 名称 | No. | 名称 | No. | 名称 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | フレーム | 13 | スポーク | 25 | 変速機 |
| 2 | ハンドル | 14 | タイヤ | 26 | リアリフレクター |
| 3 | グリップ | 15 | リム | 27 | リアキャリア |
| 4 | ブレーキレバー | 16 | タイヤバルブ | 28 | サドル |
| 5 | ベル | 17 | フロントハブ | 29 | シートポスト |
| 6 | ハンドルステム | 18 | ペダル | 30 | シフター |
| 7 | ブレーキワイヤ | 19 | ギアクランク | 31 | 補助輪 |
| 8 | ブレーキ | 20 | スタンド | 32 | 押し手棒 |
| 9 | カゴ | 21 | チェーン | 33 | フロントリフレクター |
| 10 | 錠 | 22 | チェーンケース | 34 | スポークリフレクター |
| 11 | ライト | 23 | リアハブ | | |
| 12 | フロントフォーク | 24 | 泥よけ | | |

# 2）正しい使用条件

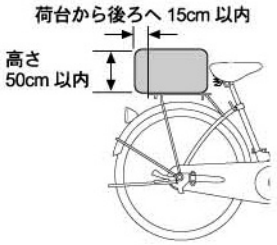
### ■最大積載質量…積載装置を備えた自転車の最大積載質量及び大きさ

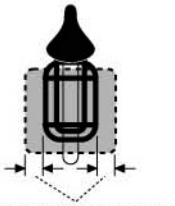
リアキャリアの最大積載質量は、キャリアに表示された質量別クラスにより決められています。荷物を載せる時は、質量・大きさを守り、ズレたり、ひもが緩んだりしないよう注意してください。また、荷物がブレーキワイヤに接触したり、前照灯やリアリフレクターなどがかくれないように注意してください。

| ●リアキャリアの質量別クラスと積載質量 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 車種 | 大人車 | | | 子供車 |
| 質量別クラス | クラス 27 | クラス 25 | クラス 18 | クラス 10 |
| 最大積載質量 | 27kg までの荷物。幼児座席の質量と幼児座席の最大適用体重の合計が 27kg まで。 | 25kg までの荷物。幼児座席の質量と幼児座席の最大適用体重の合計が 25kg まで。 | 18kg までの荷物。幼児用座席を取り付ける事はできません。 | 5kg までの荷物。 |

※リアキャリアの質量別クラスはキャリアの本体、または、足に刻印、または、シール等で表示されています。

**●カゴに載せられる荷物は 5kg 以下（子供車は 2 kg 以下）**




警告

**◆カゴ、リアキャリア以外の所に荷物を載せないでください。**
**◆大きな質量別クラスのリアキャリアを取り付けても、重い荷物を積載すると自転車の安定性を損なう場合があります。**
**◆質量別クラスを超える荷物は絶対に積まないでください。**
※リアキャリアを後付けする場合は、取り付け出来る質量別クラスをご確認ください。また、取付可能なキャリアがわからない場合は販売店にご相談ください。

### ■標準常用速度及び標準乗員体重

スピードの出し過ぎは危険ですので安全速度を守ってください。

| 車種 | 大人車 | 子供車（20～24 インチ） | 幼児車（12～18 インチ） |
|---|---|---|---|
| 常用速度 (km/h) | 10～20 | 8～18 | 5～8 |
| 標準乗員体重 (kg) | 65 | 40 | 20 |

※乗員体重は、設計の際に想定した標準体重（質量）で、当製品は右記想定にて基本設計をしております。従って基準を著しく超える方が常用された場合、消耗・劣化度合が大きくなりますので、品質保証致しかねることもあります。予めご了承ください。

### ■標準適応身長

身長に合った自転車の調整は、サドルにまたがり両足が地面に着くようにするのが適当です。サドルの高さを調整しても両足先が地面に着かないものや、足が余るようなものは正しい調整とはいえません。右の表を参考にサドルの高さを調整してください。わからない時は販売店に相談してください。

| 適正身長（cm） | サドル地上高さ（cm） | 適正身長（cm） | サドル地上高さ（cm） |
|---|---|---|---|
| 90 | 45 | 140 | 70 |
| 100 | 50 | 150 | 75 |
| 110 | 55 | 160 | 80 |
| 120 | 60 | 170 | 85 |
| 130 | 65 | 180 | 90 |

### ■走行の際、お子様は、必ず自転車用ヘルメットを着用するようにしてください。

道路交通法第 63 条の 10 より、「児童・幼児（13 歳未満の者）を保護する責任のある者は、児童・幼児を自転車に乗車させるときは、自転車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければなりません」と定められています。

## 3）安全のために必ずお守りください［警告・注意事項］

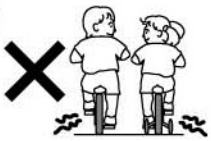
お使いになる人や他人への危害、財産への損害と自転車の損傷を未然に防止するために、必ずお守り下さい。

### 警告（守らなかった場合、死亡事故・重傷を負うおそれがあります。）

**山岳、河川などでは絶対に使用しない**
一般道路での使用を目的とするものであり、急坂登降、段差走行等、道路以外の場所（オフロード）を走行する事は禁止です。

**二人乗りやアクロバット走行等をしない**
二人乗りは法律で禁止されています。

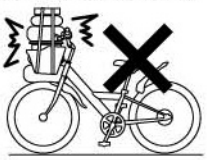
**並走の禁止**
二台以上で走行する時は一列に並んで走行して下さい。



**無灯火で乗らない**
夜間、ご乗車の際は必ずライトを点灯してください。ライトの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすくする効果があります。

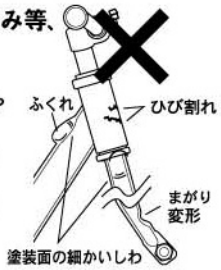
強制
- ライトが装備されていない車種には別売のライトを必ず取り付けてください。
- ライトがつかないときは、押して歩いてください。
- ライトが破損した場合はすぐに交換してください。

**積載条件を超える荷物をカゴに積まない**
荷物を積めるのは、カゴ・キャリアのみです。大きさ、重さは前頁の“正しい使用条件”を守って積んでください。また、傘や釣り竿を車体に差し込んだり、吊り下げたりしないでください。車輪をロックさせたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。



**ハンドルやサドルは限界標識線が見える所で固定しない**
ハンドルやサドルは限界標識線が見える所で固定しないで下さい。差し込みが不十分になると折れや抜けを起こし、事故・ケガのおそれがあります。

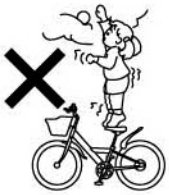
**変形やひび割れ、ネジのゆるみ等、異常のある時は乗らない**
フレームやフロントフォーク、クランクやペダル等の部品に変形やひび割れがある場合は絶対に乗らないで下さい。走行中に壊れて事故・ケガのおそれがあります。異常のある部品は、すぐに交換して下さい。絶対に曲げ戻して修理をしないで下さい。




**視界の悪い時は使用しない**
無理に乗らずに、手で押して下さい。

**凹凸の激しい所を走らない**
ハンドルを取られたり、ふらついたりする上、タイヤ・リムを損傷します。自転車を降りて、押して歩いて下さい。

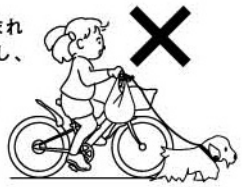
**走行以外の事（踏み台等）に使用しない**
転倒のおそれがあります。



**スポークの間に固形物（ボール等）を入れて走らない**
ボールが移動し、ブレーキ等に接触し、転倒のおそれがあります。

**手やハンドルに荷物をかけたりペットをつながない**
荷物やヒモが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、ケガのおそれがあります。

強制 荷物は前カゴに入れて下さい。



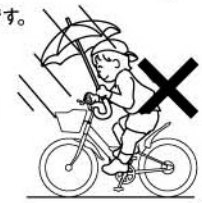
**グリップがゆるんでいる場合は乗らない**
ハンドルからグリップが取れると事故のおそれがあります。
グリップがゆるい場合は、自転車店等ですぐに交換してください。

**回転している部分には触れない**
前後輪・ギアクランク・チェーン部が動いている時は、絶対に手、足で触れないで下さい。

**ブレーキの制動面に注油しない**
ブレーキに関係する箇所の内、リム・ブレーキゴム・後ろブレーキのドラム内等には、絶対に注油したり、油布等でふいたりしないで下さい。ブレーキがきかなくなり危険です。
（P10 参照）

**指定箇所以外の調整、及び改造をしない**
取扱説明書に記載されている、指定調整箇所以外の箇所を調整したり改造する事はやめて下さい。
不当な改造が起因とされる故障は保証の対象外となります。
※ハブステップの装着も危険な改造です。

**片手運転は禁止**
危険回避など、急な操作ができずに衝突や転倒するおそれがあります。



## 警告（守らなかった場合、死亡事故・重傷を負うおそれがあります。）

**交通ルールを守る**
交通ルールを守らないと事故でケガをしたり、
他の人にケガを負わせるおそれがあります。

**走りながら足でダイナモライトの操作をしない**
ライトは必ず停車し、手で操作してください。
足での操作は足や靴が車輪に巻き込まれ
転倒する恐れがあり危険です。

**リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない**
リフレクターは後続の車両からの確認をする上で
大変重要です。汚れや損傷のない状態でご使用下さい。

**クイックレバーの締め付けは保護者の方が確実に行なう**
クイックレリースのレバーやネジの締め付けがゆるいと、転倒、
事故、ケガの恐れがあります。保護者の方がしっかり固定して
ください。また、お子様に手を触れさせないようにしてくださ
い。手をはさんだりして事故・ケガの恐れがあります。

**歩行者に危害を及ぼす恐れがある突出物を装着しない**
歩行者等に危害を及ぼす恐れがある突出物の装着を禁止し
ます。傘やステッキ、釣竿、バット、たたき棒等の搭載はやめて
ください。また、ハブステップの装着も禁止です。車輪をロッ
ク（固定）させたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。

**ぬれた道や下り坂ではスピードを出さない**
ブレーキが効きにくく、制動距離が長く
なりかつ、スリップしやすいため思わぬ
事故や転倒によるケガの恐れがあります。

**幼児の夜間走行の禁止**

**飲酒運転の禁止**

**カゴにペットを乗せない**

**車輪やサドル・ハンドルの締め付けを確認せずに自転車に乗らない**

**カーブではスピードを出さない**
曲がりきれずに思わぬ事故を招きます。

**カーブではブレーキをかけない**
横滑りを起こし、転倒する危険があります。

**カーブで曲がる側のペダルを下げない**

**滑りやすい所では乗らない**
積雪や、凍結した道、工事用の
鉄板やぬかるみ等での運転は
スリップ等をして大変危険です。
自転車を降りて押して歩いて下さい。

**スタンドを完全に跳ね上げていない状態で乗らない**
カーブの時スタンドが地面と接触し、
転倒によるケガのおそれがあります。

**走行中にブレーキワイヤーを引っぱったり、曲げたりしない**

**乗る時は安全な服装で**
マフラーや裾の長いスカートなど
運転のしにくい服装はやめて下さい。
滑りやすい靴やかかとの高い靴など
を履いて乗らないで下さい。

**雨、雪、強風の時は乗らない**
悪天候の時、自転車に乗らないようにして下さい。
特に、雨、雪の場合ブレーキが効きにくく、
事故や転倒のおそれがあり危険です。

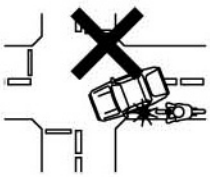
**片側ブレーキはかけない**
片手だけのブレーキ（特に前輪ブレーキ）
をかけるとバランスをくずして転倒し、ケガ
のおそれがあります。必ず、前後両方のブ
レーキをかけて止まるようにして下さい。

**急ブレーキをかけない**
急ブレーキをかけるとスリップして転倒する
危険があります。前方に注意して安全走行をして下さい。

**滑りやすい靴やかかとの高い靴などをはいて乗らない**
足がペダルから外れ、転倒によるケガの恐れがあります。

**ギアチェンジ（シフト操作）は一度に二段以上しない**
一気にギアチェンジをするとチェーンが外れることがあり大
変危険です。一段ずつチェンジしましょう。

**自動車の左折車に注意**
車道の左側を走っている自転車
が、左折する自動車に巻き込まれ
る事故がよく起きます。左折車に
は十分注意しましょう。



**駐輪時の注意**
- ●駅前や商店街など自転車を乗って行った先で
  自転車を放置してはいけません。
- ●スタンドを立てる際は必ず平坦な場所を選んで立てて下さい。
- ●自転車使用後は、ブレーキに手を触れないで下さい。
  熱くなっている箇所がありますので
  やけどのおそれがあります。
- ●駐輪禁止の場所には駐輪しないで下さい。
- ●盗難を防ぐため、カゴの荷物は必ず持っていって下さい。
- ●なるべく直射日光、雨等をさけて駐輪して下さい。
- ●必ずカギをかけて下さい。

**泥よけの取り扱いについて**
泥よけに乗ったり、荷物を乗せたり、持ち運ぶ時に持ったり
無理な力をかけると、変形、破損のおそれがあります。
乱暴な取り扱いはやめて下さい。

## 警告（守らなかった場合、死亡事故・重傷を負うおそれがあります。）

**衝突や転倒した時には**
衝突や転倒をした際は、必ず自転車各部を点検して下さい。異常がある場合は販売店に相談して下さい。

**自動車の横を走り過ぎるときはスピードを出さない**
自動車のドアが急に開き衝突する危険があります。

**ショルダーバッグ（１本ひものバッグ）を背中に提げて自転車に乗る場合は、バッグが動いて運転がしづらくなるので注意する**
特にバッグのひもが長いと、バッグが自転車の後輪錠などに当たって誤動作する場合があります。

**走行中、くつ先が前輪や前泥よけに接触しないようにする。**
前輪の回転により、足が巻き込まれて事故を起こす危険があります。また、泥よけ等の部品が破損するおそれがあります。

**食べたり飲んだりしながら乗らない**
片手運転と前方不注意により、事故を起こすおそれがあります。

**ヘッドフォンやイヤホンを使用しながら乗らない**
周囲の音が聞こえにくくなり、事故を起こすおそれがあります。

**走りながら携帯電話や音楽プレーヤーをかけたり、操作しない**
片手運転と前方不注意により、事故を起こすおそれがあります。

**長い下り坂などでのブレーキのかけっぱなしはしない**
ブレーキの制動部が発熱して、ブレーキがきかなくなり、衝突や転倒によるケガのおそれがあります。前後どちらかのブレーキレバーを時々はなして発熱を抑えて下さい。特にバンドブレーキやローラーブレーキは発熱しやすいのでご注意下さい。

## 警告　前輪ロックに注意!　<ブレーキのかけ方>

**※前輪ロックとは、走行中に前輪の回転が瞬間的に急停止することです。衝突と同じくらいの衝撃があり、前のめりに頭から転倒し、大事故につながります。必ず後ろブレーキを先にかけ、次に前ブレーキをかけるように習慣づけてください。**

**特に幼児には、保護者の方がブレーキレバーに指がきちんとかかることを確認した上で、ブレーキ操作のやり方をくり返し教え、操作ができることを確認するようにしてください。**

前輪がロックされる原因には以下のような場合が考えられます。
安全には十分注意して走行しましょう。

- ●ハンドルにぶら下げたバッグ等が、前輪や前輪と車体との間に入った時。
- ●前カゴに入れたバンドや細長いヒモ状のもの等が、前輪の間に入った時。
- ●スピードを出していて、前ブレーキのみをかけた時。
- ●スポーク切れやその他の原因でリムが横揺れし、タイヤが車体に接触した時。
- ●ライトのダイナモを足先で蹴って倒すとき誤って足を車輪の間に突っ込んだとき。又、そのときダイナモが車輪の間に入ったとき。
- ●衝突などでフロントフォークが曲がっていたり、ネジがゆるんでいたりして、ブレーキゴムがタイヤにあたった時。
- ●外部からの異物が車輪の間に入り込んだ時。
- ●前輪のネジがゆるんでいて、車輪が傾いてタイヤが車体に接触した時。

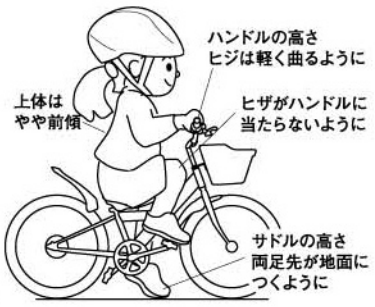
## 4）各部の取り扱い方と調整方法

安全確保のため、調整はお子様には絶対にさせないようにして下さい。次の調整を確実に行い、正しい取り扱いをお願いします。これを怠りますと、思わぬ事故につながります。ご不明な点がございましたら、お客様相談係かお買い求めの販売店、お近くの自転車店等におたずね下さい。

### 正しい乗車姿勢

●正常な乗車姿勢がとれるよう、ハンドルとサドルの高さを乗車する方の体格に合わせてください。疲れず、安全に走るには、正しい乗車姿勢をとる事が基本です。サドルに座り、両手をグリップにおいた状態で、下記の点を確認してください。
※お子様がお使いになる場合は、成長に合わせて常に正しい状態で使用できるよう、保護者の方が気をつけて調整してあげてください。

①両方の足先が確実に地面につくこと。
②上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲ること。
③ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず安全にハンドルの操縦操作ができること。
④円滑にペダルをこぐ事ができ、ブレーキ、ベル等が安全に操作できること。
⑤ハンドルのにぎり最上部と、サドルの座面中央部の高さの差が30cm未満になっていること。

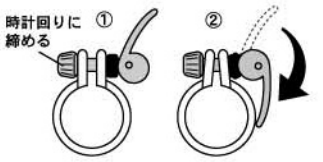


## クイックレリースの取り扱い方

“クイックレリース”とは、工具を使わず、確実に可動部分を固定する機構です。
シートポストの固定やハブの固定に使われています。

●使用方法をよくお読み頂いて、ガタつき・緩みの無いようにクイックレバーでしっかり固定して下さい。ガタつき・緩みのある状態で乗車すると事故の原因となる可能性があり大変危険です。乗車前には P8～P10 の点検を行い保護者の方が必ず確認して下さい。

### クイックレリースの固定方法　※解除する場合は逆の手順で行って下さい。




※調整ネジが緩んでいるとレバーを倒しても固定されません。必ず固定するたびに調整ネジを適度に締めて下さい。

※調整ネジを強く締め過ぎるとクイックレバーが倒せなくなりますのでご注意下さい。

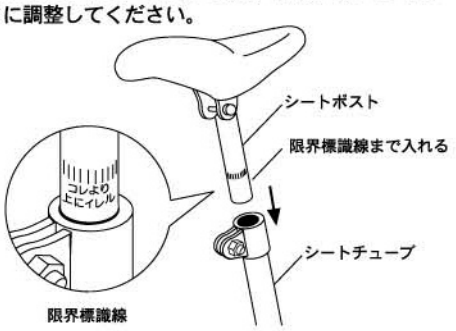
※乗車時にじゃまにならないようレバーはパイプに添わせて倒して下さい。

①調整ネジを適度に締める。
②クイックレバーを倒す。
③ P8～P10 の点検を行い、固定されているか確認する。
④固定されていない場合は、レバーをおこして調整ネジをさらに締め、もう一度②③の手順で固定し、確認して下さい。

## サドルの調整

### ■サドルの高さ

サドルに腰をおろし、ペダルを一番下にして足を乗せた時、ヒザが軽く曲がる程度の高さが適当です。お子様や初心者の方は、両足つま先が地面に確実に接するくらいの高さに調整してください。

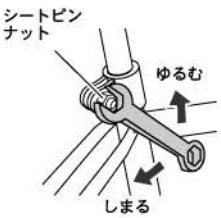



**警告** 最も高くした場合でも、シートポストの限界標識線が見えなくなるまで挿入してください。サドルのシートポストが折損してケガの恐れがあります。

**サドル高さの調整方法**

**●シートピン式の場合**

シートピンナットをスパナで時計回りと反対方向へ回すと固定が緩み、サドルを上下に調整できます。固定する場合は時計方向に回して締め付けます。

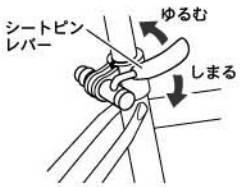



**●クイックレバー式シートピンの場合**

クイックレバーを右図の「ゆるむ」方向に操作すると、シートポストが緩みます。固定する場合は、クイックレバーを「しまる」方向いっぱいに押しつけます。シートポストが十分固定しなかったり、固過ぎてシートポストに接するまで締められない場合は、レバー反対側の調整ナットを回して調整してください。（上記取り扱い方参照）

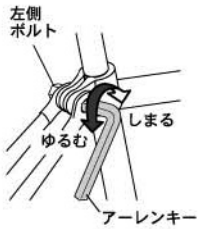
**●レバー式シートピンの場合**

シートピンレバーを反時計回りに回すと、シートポストが緩みます。固定する場合は、時計回りに回して締め付けます。



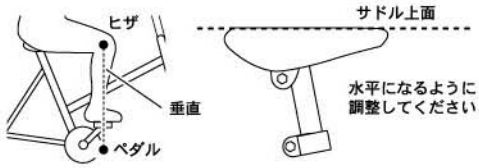

**●六角穴式シートピンの場合**

アーレンキーを反時計回りに回すと、シートポストが緩みます。固定する場合は、時計回りに回して締め付けます。左側のボルトを回すと破損します。絶対に回さないでください。



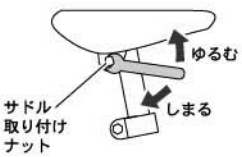

### ■サドルの前後位置と角度

サドルの前後位置は、ペダルを斜め前の一番力のかかる位置にして足を乗せた時、ヒザの中心からの垂線がペダルの中心を通る様にするのが標準です。また、角度はサドル上面がほぼ水平になるように調整してください。




**サドルの前後位置と角度の調整方法**

サドルの前後位置は、サドル取り付けナットを反時計回りに緩めて調整します。調整後サドル前先端をフレームの中心に合わせて、サドル取り付けナットをしっかり締め付けてください。



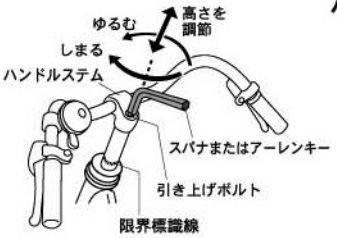
## ハンドルの調整

**■ハンドルの高さと角度**

サドルに腰をおろし、ハンドルを握った時に肩やヒザに余分な力が入らず、上体がリラックスできるくらいの高さが適当です。ハンドルとハンドルステムの取付角度は、ハンドルを横から見てグリップとハンドルステムが直角になるのが標準です。

**ハンドルの高さ調整**

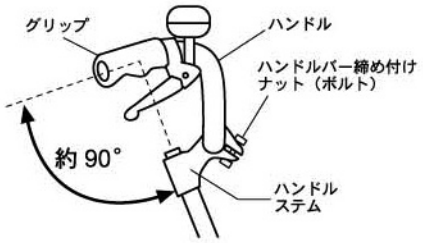
ハンドルステムの引上げボルトを反時計回りに２～３回緩めます。スパナまたはアーレンキーを使用してください。ボルトの頭に木片等を当てて軽くたたくと固定が緩みステムが上下に調整できます。




**警告** 最も高くした場合でも、ハンドルステムの限界標識線が見えなくなるまで挿入してください。ハンドルステムが折損してケガの恐れがあります。

**ハンドルの角度の調整**

ハンドルバー締め付けナット（ボルト）を必ず緩めてから、ハンドルバーの角度調整をしてください。調整後は締め付けナット（ボルト）を元通りに時計回りに回してしっかり締め付けてください。



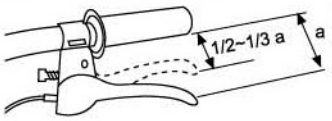

## ブレーキの調整方法

●長い間使っているとブレーキレバーのあそびが大きくなり、効きが悪くなっていきます。常にブレーキが効くように調整して下さい。

**警告** ブレーキ各部はこの説明書に記載されている以外の調整を絶対に自分で行わないで下さい。

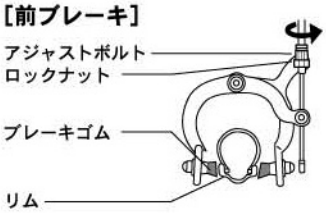
前・後ブレーキ共にアジャストボルトをゆるめるとブレーキレバーのあそびが少なくなります。ブレーキレバーを引いてすきまが1/2～1/3になるまでにブレーキが効くよう、調整して下さい。アジャストボルトにはロックナットが装着されているので、一度ロックナットをゆるめてからアジャストボルトを調整して下さい。調整後はロックナットを締め付けて下さい。

**[ブレーキの作動範囲]**




※すきまが 1/2～1/3 になるまでにブレーキがよく効くこと。
※レバーの作動が重くないこと。

**[前ブレーキ]**

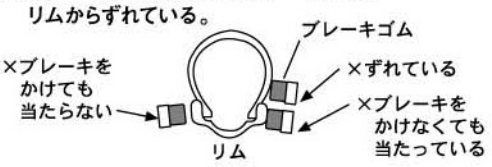



**[後ブレーキ]**

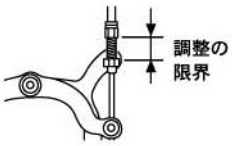
### 次の場合には自転車店等にご相談下さい。

**強制** ブレーキワイヤは消耗品です。異常がなくても２年に一度は交換してください。
ブレーキレバーの遊びが大きいものは、ブレーキが効かなくなることがあり危険ですので、すぐに販売店で調整を受けてください。

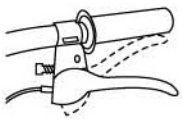
○ブレーキゴムがリムに当たったままになっている。
○ブレーキをかけた状態でブレーキゴムがリムからずれている。



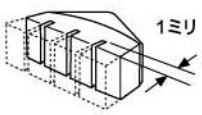

○アジャストボルトで調整しきれない。




○ブレーキの効きが悪くなった。



○ブレーキゴムが磨耗して、溝の残りが１ミリになった。




## タイヤの空気圧

●タイヤの側面に表記されている空気圧の範囲でご使用下さい。

表示例―（○○○KPa、○○Kgf/㎠、○○PSI）
（注）換算率―1KPa=0.01Kgf/㎠=0.145PSI

【空気圧の簡易測定のしかた】
自転車に乗車した状態での接地面の長さで空気圧を判断します。地面との接地面の長さが約 7~8cmになるように空気を入れて下さい。

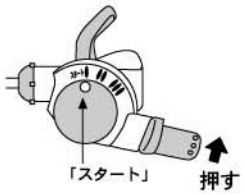
**注意** 空気圧が適切でないと、タイヤの接地面積が広くなって走行抵抗が増し、ペダルをこぐのが重たくなります。また、タイヤの摩耗やパンク、リムの変形の原因になります。必ず適切な空気圧を保って乗車して下さい。

## 内装３段変速機（例：ピアノタッチ 1-2-3 チェンジ等）の取り扱い方

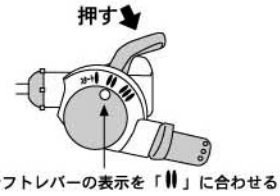
リアハブ内に変速機を組み込んだ内装式３段変速機です。

**使い方**

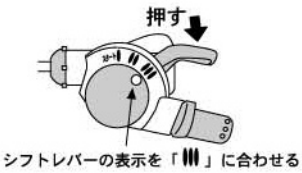
●スタートする時にペダルが重く感じる時は、下のレバーを押して、上のシフトレバー位置を「スタート」にしてください。




●軽い荷物を積んだ時や平坦な道などでは、上のシフトレバーを押して、シフトレバー位置を「Ⅱ」にしてください。




●追い風や下り坂等、ペダリングに余裕のある時は、上のシフトレバーを押して、シフトレバー位置を「Ⅲ」にしてください。




**取り扱い上の注意点**

安全にご使用いただくため、必ずお守りください。

警告
- ◆変速操作をする時は、ペダルの踏力を弱くするか回転を止めるかして行なってください。足をすべらす等の危険があります。
- ◆リアハブには、絶対に足をかけないでください。
- ◆シフトワイヤはカゴブラケットやカゴのワイヤ掛けには絶対に通さないでください。
- ◆変速がスムーズに行なわれなくなった時は、販売店にて調整してください。

**その他の内装変速機の使い方**

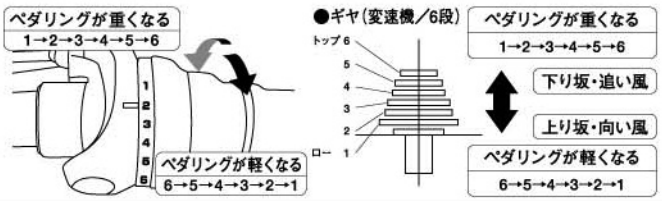
これらの内装式変速機は、内装式のため、注油等のメンテナンスが基本的に不要で、それによるトラブルも起き難くなっています。変速操作はレボシフトと呼ばれるグリップ部分に設けられた変速装置を回す事で変速ができます。詳しくは、各専用取り扱い説明書をご覧ください。

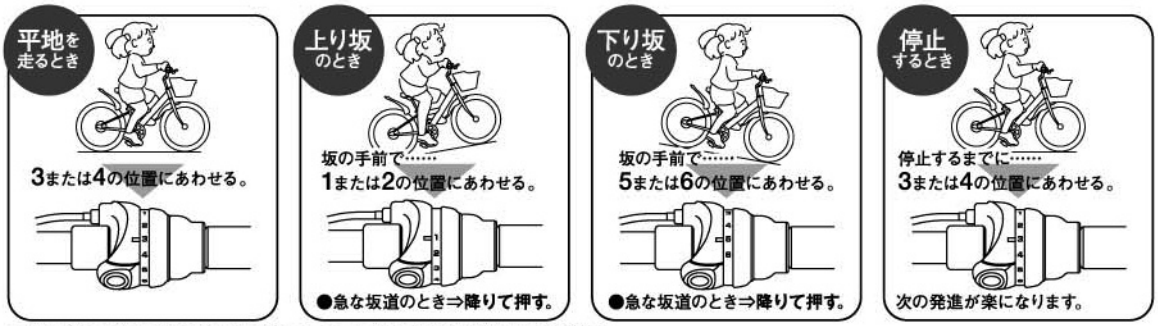
## 外装式変速機の取り扱い方

変速機は、坂道や風向きなどの走行条件の変化に応じてギヤを変え、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを少なくする装置です。シフトグリップで変速機を作動させ、チェーンをかけかえてギヤ比を変えます。

◎右手のグリップ部分をひねると、後輪の変速ギヤが操作できます。

●シフトグリップ表示とギヤの位置




●変速機は、坂や風の状態、体調等によって、最適の変速位置を選んでください。

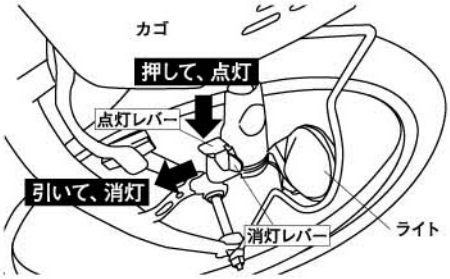
注意 下っているときは後ブレーキをかけながらスピードが出すぎないようコントロールしてください。

注意 坂の途中では変速がしにくいので、坂の手前で早めに変速操作をしてください。

### ■ 操作上の注意

- ・ペダルを止めたまま、または逆回転させながらシフトすると変速機・チェーンを痛め、故障の原因になります。
- ・ペダルを強く踏みながらシフトしたり、一気に二段以上シフトすると、チェーン・ギヤの寿命が短くなりますので避けてください。
- ・チェーンがよく外れたり、円滑にシフトできないときは調整が必要です。（変速機は微妙な調整が必要です。むやみに調整ネジを回すとさらに調子が悪くなることがあります。）必ず自転車店等に依頼してください。

## ライトの取り扱い方




**①ライトのつけ方**
点灯レバーを下に押して下さい。

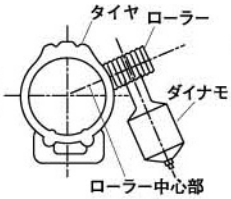
**②ライトの消し方**
消灯レバーを矢印の方に引いて下さい。

強制
- ●夜間及び暗い所を走行するときは、必ずライトを装備し、点灯することが法律で定められています。
- ●走りながら、足でライトを操作しないで下さい。ライトは必ず停車して、手で操作して下さい。

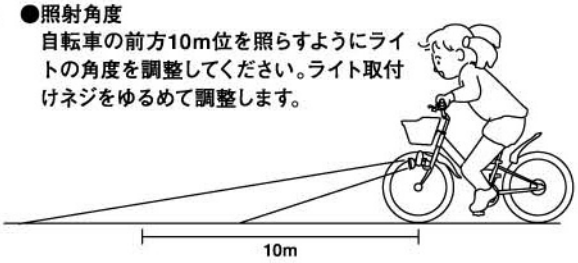
**■ ライトの調整**　ライトは走行の安全上正しい取扱いが必要です。

●ダイナモの位置
ダイナモの中心線延長がハブの中心にあっているか確認してください。取付けがゆるんでダイナモが前に傾いた状態での走行は車輪に挟まれる恐れがあり危険です。販売店に相談してください。

●点灯レバーを押し、
ダイナモを駆動状態にしたときローラーの中心がタイヤに接触しているか確認してください。




●照射角度
自転車の前方10m位を照らすようにライトの角度を調整してください。ライト取付けネジをゆるめて調整します。




●電球の取り替え
電球を取り替える時には同じ仕様の電球を自転車店等で確認の上、交換補充するようにしてください。

## 5）乗る前の点検　注意　点検は必ず保護者の方が行なってください。

### 乗る前の注意

**まず体に合わせる**
P4～P8の「各部の取り扱い方と調整方法」を参考に保護者の方がお子様の体格に合わせて正しく調整してください。

**必ず点検をして下さい**
乗る前には必ず保護者の方が点検をしてください（次ページの「日常点検と調整のポイント」参照）。分からない点は、お客様相談係か自転車店等に相談してください。

**乗る練習は**
練習をするときは、空き地や公園などの安全な場所でしましょう。

**安全な服装で**
車輪に巻き込まれやすい服装はしないでください。ズボンのすその汚れやチェーンへの巻き込みを防止するためズボンはズボンバンドで止めてください。靴はかかとの低い滑らないものを履いてください。

**初期点検及び定期点検は**
購入後2ヶ月以内はネジのなじみなどの影響でゆるみなどが生じやすいので2ヶ月以内に初期点検を受けてください。またその後は1年ごと及び異常を感じた場合に、自転車店等で点検をうけてください（有料）。

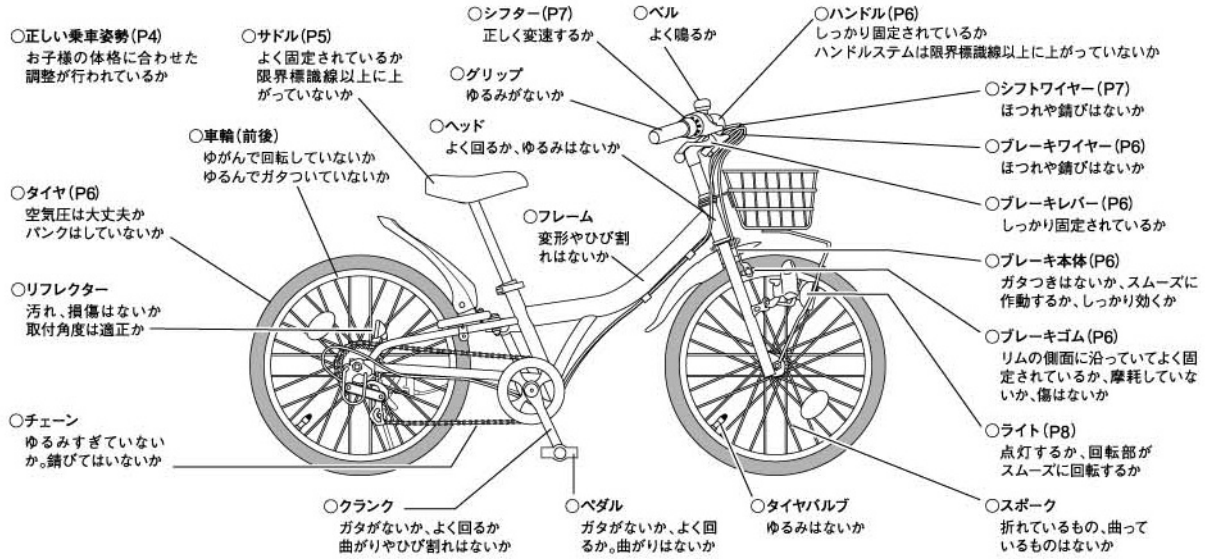
強制　定期点検、整備を受けていないと保証の対象外となることがあります。

**安全に乗っていただくため、上記に注意するとともに、次ページ以降にある日常点検と調整を実施してください。**

## 日常点検と調整のポイント

**安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。点検、調整後は試乗を行ってください。異常があった時や不明な点があるときは、乗車せずにお客様相談係か自転車店等にご相談ください。**

**強制** **ブレーキワイヤー、シフトワイヤーは異常がなくても 1 年に 1 回は交換してください。タイヤは接地面の溝が一部でもなくなる前に交換してください。ブレーキゴムは制動面の溝が残り 1 ミリになる前に交換してください。**



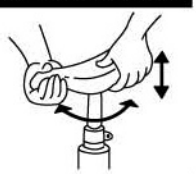

### ①正しい乗車姿勢が取れますか。

サドルに座った時、サドル、ハンドル、ブレーキレバーの位置は適正ですか。
(P4「正しい乗車姿勢」参照)

### ②サドルの調整箇所はしっかり固定されていますか。

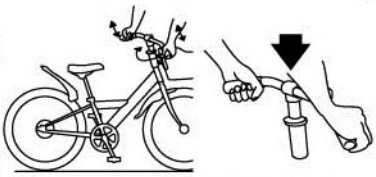
P5 を参考に確実にシートポストを固定し、下記の点検により確認してから乗車してください。

フレームとまっすぐに取り付いていますか。
大人がサドルの前後を持って上下、左右に力を加えてもガタつきや動きはありませんか。



### ③ハンドルはしっかり固定されていますか。

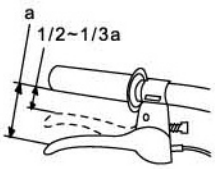
P6 を参考に確実にハンドルステムを固定し、下記の点検により確認してから乗車してください。
前輪に対して直角に取り付いていますか。大人が左右のハンドルグリップをもって前輪を両足にはさみ上下左右に回そうとしてもガタつきや動きはありませんか。図のように両手で押し下げても動かないこと、また、グリップがゆるんでいないかを確認してください。



### ④ブレーキはよく効きますか。

左右のブレーキレバーを握って操作した時、ブレーキレバーとグリップとの間が 1/2～1/3a になるまでにブレーキが効きますか。(P6 参照)

※お子様の指がブレーキレバーに届いているか必ず確認してください。また、ブレーキのかけ方をくり返し教え、ブレーキが操作できることを確認してください。




### ⑤車輪はしっかり固定されていますか。

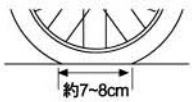
自転車を持ち上げて、タイヤを上から強く叩いた時、車輪がしっかり固定されていますか。

### ⑥タイヤはパンクしていませんか。

乗車する時はパンクの確認をしてください。タイヤを押さえてへこむ場合はパンクしている可能性があります。パンクした場合はお近くの自転車店等で修理してください。

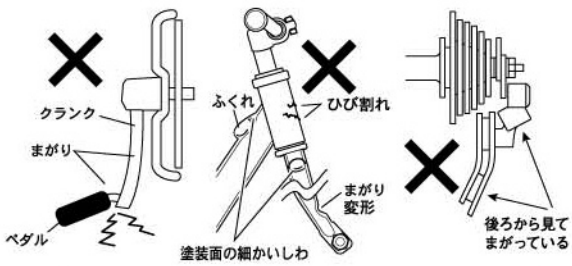
### ⑦タイヤの空気圧は十分ですか。

目安として、乗った時に地面との接地面の長さが 7 センチくらいになるのが標準です。 空気圧が低すぎるとタイヤの破損が早くパンクの原因となります。 (P6 参照)




### ⑧フレームやフロントフォークの変形やひび割れはないか、変速機、ペダルやクランクに変形、まがり、ゆがみ、ひび割れ、塗装の細かいしわ等はありませんか。

**強制** **変形している部品は、自転車店で必ず交換、修理をするようにして下さい。**




**禁止** **まがりを直しての再使用は絶対にしないで下さい。破損によるケガのおそれがあります。**

### ⑨チェーンはゆるみ過ぎていないか。錆びてはいないか。

定期的に自転車店で点検を受け、ゆるみが大きくなったら交換してください。ゆるみが大きくなると、走行中にチェーンが外れやすくなり、大変危険です。

### ⑩変速機は正常に作動しますか。

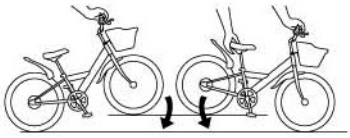
クランクを回転させながらシフトグリップを操作したときギヤチェンジ（変速）はスムーズか。チェーンが外れないか。

### ⑪ライトは点灯しますか。

ライトが点灯しますか。回転部がスムーズに作動しますか。

### ⑫各部のネジはゆるんでいませんか。

自転車の前輪と後輪を別々に持ち上げて（10～20 センチ）軽く落とし、異音や取付けのズレがないか確認します。 異音はネジやナットのゆるみが原因です。



## 6）お手入れと保管　安全と品質保持のために

**［日常のお手入れ］** 乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。

- 雨など水にぬれたときはよく乾燥させた後、下図の箇所に注油して下ください。
- 塗装部（フレーム）のお手入れ —— 乾いた布でよく拭き、自動車用のワックスをかけ、乾いた布でよく拭き取ってください。
- メッキ部（ハブ等）のお手入れ —— 乾いた布で汚れを拭き取り、「錆び止め油」か「機械油」を塗った後、余分な油を拭き取ってください。
- 錆びやすい場所（海岸、湿気の多い所）に置く時はお手入れの回数を増やしてください。
- 塗装やメッキ部分に傷がついた時は、すぐにお手入れしないと水分や湿気により、損傷箇所から錆びが発生しやすくなります。その際は、すぐに乾いた布で汚れを拭き取り、「錆び止め油」か「機械油」を塗った後、余分な油を拭き取っておいてください。

＜注意＞以下の場合も錆びの原因となります。

①焚き火の煙がかかった場合。特にビニールを燃やした煙がかかると錆びやすくなります。（塩化物を含む物質の燃焼時に塩素が発生し、塗装面やメッキ層に浸透して錆びが浮いてくると考えられます。）
②ジュース等の飲料水等がかかったまま放置した場合　③工事現場や金属加工場近くで金属粉が付着した場合

**ご注意**
○ シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
○ 回転部分（チェーンホイール、車輪、チェーン等）には手を触れないでください。
○ サドル、リム、グリップ、ブレーキレバーには、ワックスや油がかからないように注意してください。

## 標準予備部品について

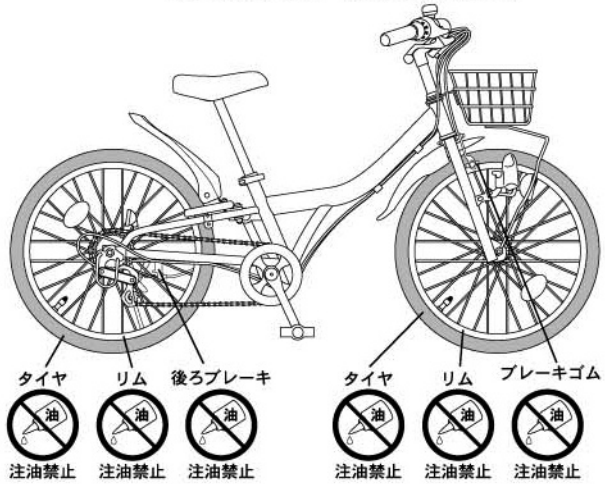
ブレーキワイヤー、シフトワイヤー、かじとりワイヤー、ブレーキゴム、タイヤ、チューブは消耗品です。
自転車店等で取り扱っておりますので自転車を持参して、適合したものに交換修理してください。
・タイヤ、チューブについては、サイズを指定してお買い求めください。
・その他の予備部品については販売店にご相談ください。

### 注油について

**この記号の箇所は注油禁止箇所です。**
**絶対に「油」や「グリス」を付けないでください。**

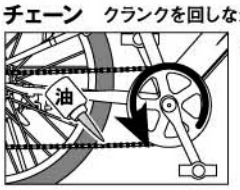
**タイヤにワックスや油を付けないでください。**
**ひび割れが生じます。**

**■注油禁止箇所** 下記の注油禁止マークのある箇所には絶対に注油しないでください。特にリムやブレーキゴムなど制動面には注油しないでください。ブレーキが効かなくなります。



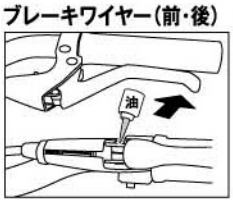

**■注油箇所**

**チェーン** クランクを回しながら注油




※チェーンには油を付けすぎないでください。付けすぎた油は拭き取ってください。（埃が付き寿命が短くなります。）

**ブレーキワイヤー（前・後）** ワイヤーの可動部に注油




※ブレーキレバーのワイヤー固定部に注油を怠らないでください。

**変速機**
可動部と歯車に注油

### [日常の保管]

● 雨がかからない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる所では市販の「サイクルカバー」を使用してください。
※ 長期間保管後再使用される場合は、自転車店等で点検整備の上（有料）、ご使用ください。
● 盗難防止のために、鍵をかけて保管してください。

### [こんなときどうするか]

1．**転倒したら**…フロントフォーク、ハンドルが変形することがあります。自転車を横から見て調べてください。また、ハンドル、ブレーキレバー、ペダル、変速機をぶつけ、傷つけます。特にハンドル、ブレーキレバーの変形や折損などに注意してください。
2．**パンクしたら**…パンクしたまま乗り続けるとリム、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押してください。自転車販売店で修理（有料）してください。
＜注意深い使用で避けられるパンクの原因＞ ①クギ、ガラスの破片などを踏んだ時。②道路の穴に落ちたり、段差などに乗り上げた時。③空気圧の不足。
3．**交通事故**…万一、交通事故を起こした場合は、相手が歩行者、自転車、自動車を問わず、応急処置の後、すみやかに警察に通報してください。事故処理等の一切は、警察官の指示に従ってください。
4．**ブレーキの故障やブレーキワイヤが切れた時**…ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押してください。近くの自転車販売店で修理（有料）してください。
5．**異常を感じた時**…日常点検および、走行中に異常を感じた時は、速やかに自転車販売店で点検整備（有料）をお受けください。

**★保険に加入しましょう**…万が一のため、対人対物賠償保険に加入しましょう。

### 自転車の廃棄について

**自転車を廃棄する時は、お住まいの市町村で決められたルールに従って適切に処分してください。決して駅前等に放置しないでください。**

## 7）防犯登録について…

**防犯登録は、改正自転車法により、平成 6 年 6 月 20 日より義務付けられています。**

● 防犯登録とは、自転車の盗難被害の防止、盗難車の早期発見、また盗難自転車を使用した犯罪防止等のため「その自転車が誰のものであるかを公的に証明する手段」で、放置されている自転車をきちんと所有者の元へ返却するのが目的です。防犯登録は、自転車本体に刻印されている車体番号（車体刻印番号）や塗色、メーカー等の自転車のデータとその所有者の氏名、住所、電話番号を一括して登録するシステムで、名前を書いただけのものより戻ってくる可能性は高いことになります。
●防犯登録は、盗難保険ではありません。あくまでも盗難車を所有者に返却するのが目的ですので、代替車両の給付、また金銭による補償は受けられません。
●防犯登録の有効期限は各都道府県により異なります。但し、譲渡、廃車のときは、抹消車の提出、引っ越し等で住所、氏名、電話番号が変わったときは登録変更届を提出してください。
●盗難にあってしまったら、警察に被害届を出してください。発見された盗難車は被害届けに照合して所有者に返却されます。その際、防犯登録カードの控えが必要になります。保証書と共に必ず保管しておいてください。

## 8）定期点検用チェックリスト

● ご購入後 2ヶ月時点で 1 回目を、その後 1 年ごとに実施して下さい。 ● 点検・整備はお早めに自転車店等に依頼されることをおすすめします。（有料）

| | 点検項目 | 2ヶ月時点初期点検<br>年 月 | 1年ごと<br>年 月 | 1年ごと<br>年 月 | 1年ごと<br>年 月 | 1年ごと<br>年 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 体格に合った調整がされているか。 | | | | | |
| | ●サドルにまたがって両足先が地面に届くか。 | | | | | |
| | ●ハンドルの高さは適当か。 | | | | | |
| ② | 以下の部分は確実に固定できるか。 | | | | | |
| | ●ハンドルにガタ付き、ゆるみはないか。 | | | | | |
| | ●サドルにガタ付き、ゆるみはないか。 | | | | | |
| ③ | フレーム・フロントフォークに変形や亀裂などはないか。 | | | | | |
| ④ | ヘッド・ハンガー小物にガタ・磨耗はないか。 | | | | | |
| ⑤ | ブレーキゴム類の消耗品はすり減っていないか。 | | | | | |
| ⑥ | ブレーキレバーの間隔は正常か。前後のブレーキはよく効くか。 | | | | | |
| ⑦ | 車輪のぶれ、スポークのゆるみ・曲がり、軸部のガタ付きはないか。 | | | | | |
| ⑧ | チェーンのたるみ・張りは適正か。 | | | | | |
| ⑨ | タイヤの空気圧は適正か。すり減っていないか。外観に異常はないか。 | | | | | |
| ⑩ | クランクに曲がりはないか。チェーンホイールは滑らかに回転し、ガタはないか。 | | | | | |
| ⑪ | ペダルは滑らかに回転するか。ガタ付き、異音はないか。 | | | | | |
| ⑫ | ペダルとクランクは直角になっているか。 | | | | | |
| ⑬ | ベルはよく鳴るか。ゆるんでいないか。 | | | | | |
| ⑭ | 泥よけ、前カゴはしっかりと取り付けてあるか。 | | | | | |
| ⑮ | スタンドの安定性は正常か。ガタ付き、ゆるみはないか。 | | | | | |
| ⑯ | 各部のクイックレバー、ネジ類のゆるみ、脱落箇所はないか。 | | | | | |
| ⑰ | フリーホイールの回転と注油はよいか。 | | | | | |
| ⑱ | チェーンケースの形状と取り付けはよいか。 | | | | | |
| ⑲ | ライトは点灯するか。ネジはゆるんでいないか。 | | | | | |
| ⑳ | リフレクターはこわれていないか。汚れていないか。 | | | | | |
| ㉑ | ギアチェンジは正確に作動するか。また、チェーンがはずれないか。 | | | | | |
| ㉒ | 錠の取り付けと機能はよいか。 | | | | | |
| | 定期点検・調整を実施した専門店ならびに年月日 | ㊞<br>年 月 日 | ㊞<br>年 月 日 | ㊞<br>年 月 日 | ㊞<br>年 月 日 | ㊞<br>年 月 日 |

※ 点検時期以外であっても異常を感じた場合は上記の点検を実施して調整・修理して下さい。